

(彩光文庫)

エッセイで読み解く
教育・指導のエッセンス

宗内 敦



【 絵 ・ 河西万文 】

(書肆彩光)

はじめに

やがては後期高齢者——、バスや電車など、乗り物に乗って吊革につかまるのがかなり苦痛になり始めた頃でした。乗客がぎっしり詰まった満員バスの中で、小学生のお嬢さんを連れた若いお母さんから、席を譲られました。そのお母さんは、疲れ切った様子で座席に座っていたお嬢さんをわざわざ立たせ、その席を私に譲ってくれたのです。なかば眠っていた少女はおぼつかないに立ち上がり、よろよろと母親にもたれかかります。身をすくめて座席で見守るばかりの私。それを見かねたのか、お母さんは少女の手を引き、人をかき分け運転席傍の柱まで移動します。そして、改めて少女を抱き直し、抱きついて胸元に顔をうずめた彼女の髪をいとおしそうに撫で始めました。わが子に対するそのお母さんの、母親ならではの、思いを伝える細やかな仕草——。情景はあまりにも美しく、また、子育て、しつけの髄にも触れていて、私は見惚れて、目も心もすっかり奪われていました。

私は、この感動を、編集・発行を務めていた教育・文芸同人誌にそのままエッセイで表しました（『母と子——優しさと厳しさ——』『琅』19（二〇〇六年））。それを教育や心理臨床に取り組むたくさんの友人・知人に送ってみました。様々にお褒めの言葉が戻ってくる中で、私を一番喜ばせてくれたのが、山梨県の心理臨床界で活躍する保坂三雄先生の返書中にあった

“教科書に載せたい文章です”の文言でした。

分かってもらえた、という実感、これが無上の感激でした。そうです、堅苦しく、ともすれば難解な抽象的表現に終始する専門的な論考ではとても伝えきれない、また表現し得ない微妙な内容が、読み物（エッセイ）なら、洞察という推察力をもつてきつと読み取ってもらえるはず、という視点から、「母と子——優しさと厳しさと——」はまさに単なるエッセイではなく、いわば理論を裏付ける心理臨床事例とも見做して書いたものでした。

このお返事を頂いて力をもらい、私はいつか、こうしたエッセイを取り入れて、教育・指導の髓に分かりやすく迫る読み物風専門書を出してみようと思ひ立ちました。幸い、『児童心理』、『教育心理』その他、様々な啓蒙誌に書き残してきた心理学的文章は、ある意味、どこかエッセイ風のものが多く、これらを集め、さらに発達と適応に関する必須の論考をいくつか加えれば、なんとか一冊上梓できるのではないかと思えるようになりました。

本書は、読み物風エッセイから専門的論考まで、硬軟取り混ぜての教育・しつけ・指導の専門書として編みました。次代を担う子どもたちを教え、育てる方々にとって、本書が少しでもお役に立てば、この上ない喜びです。

二〇一七年十月 清秋の日

宗内 敦

目次

はじめに	1
------	---

序章 教育・指導の原点	7
-------------	---

一、母と子——優しさと厳しさと——	8
二、教師の「権威」と「指導力」	17
第一章 教育の主役は親・教師	31

一、夫婦関係の教育力	32
二、子どもにとつての父親	42
三、家庭における非行児の指導	48
四、思いやりのない子の発見と指導	56
五、教師はすべからず“権威”を持って	72

第二章 学校、教師の問題点 89

- 一、傍観者を生む教室風土 90
- 二、社会化偏重教育のもたらすもの 99
- 三、いじめつ子に見られる仲間関係 108
- 四、教師加害者論に謙虚な姿勢を 118
- 五、「臨床心理士」教・雑感 122
- 六、心理学を学ぶみなさんへ 126

第三章 閑話休題・教育時評 135

- 一、指導力の源泉——オウム真理教事件にちなんで 136
- 二、教育機能を損ねない体罰事件処理を 138
- 三、クライエントさん 141
- 四、学校・教師はいじめ体質から脱け出よう 146
- 五、「毅然たる指導」は権力主義の源 149
- 六、教育とは何か、保護とは何か 152
- 七、麻薬的体罰教育から脱しよう！ 154

八、大津市・中学生いじめ自死事件は人災	158
九、サイコパス（精神病質者）などと言っなかれ	162

第四章 適応・不適応の心理 167

一、発達段階と不適応	168
二、反社会的行動と教育相談	213

終章 教育・しつけ・指導における副作用 237

過ぎたるは及ばざるが如し	238
--------------	-----